

第34回

産学連携による
環境に優しい「マスクケース」開発

中部経済産業局では、カーボン・オフセットの取り組み等による次代を担う若者への意識啓発や活用促進を目的に、産学連携による環境に優しい商品開発に取り組んでいます。

今般、地元企業と専門学校が連携し、「布マスクケースで地球温暖化防止海の生き物も守ろう」をテーマに、使い捨てマスクのポイ捨て及び無駄遣い防止に加え、環境にやさしい素材を使用することで、地球温暖化防止・海洋汚染防止に繋げる「マスクケース」をデザインするコンテストが開催されましたので、ご紹介させていただきます。

コロナ禍において、生活する上でマスクの着用が必須となっている状況の中で、使い捨てマスクのポイ捨てを目にすることが多くなりました。また、近年プラスチックゴミの海外流出が温暖化に続く新たな地球環境問題とされており、生態系を含めた海洋環境への影響が懸念されています。本年度の7月から、日本全国で小売事業を行う際のレジ袋など容器包装の使用合理化の取組を定める「容器包装リサイクル法」の省令が改正され、レジ袋（プラスチック製買物袋）については有料化が義務付けられました。

このような背景から、慈恵歯科医療ファッション専門学校の学生の皆様と先生方、名古屋市身体障害者福祉連合会名身連第一ワークス・第一デイサービスの皆様にご協力いただき、使い捨てマスクのポイ捨てを防止し、ゴミの削減に繋がる「マスクケース」の商品開発に至りました。

事前に学生は地球温暖化の現状や生活における地球温暖化への影響、カーボン・オフセットの仕組みや環境負荷の低い「マスクケース」を作るにはどのような方法があるか等を学習しました。

また、マスクケース作成にあたり、どのような材料を選択した方が環境に優しいか、繊維業界の現状と合わせて学習し、実際にマスクケースを製造する作り手側についての講義も受け、多方面に視野を広げた上でマスクケースデザインの制作に取り組んでいただきました。

事前学習を参考に、マスクケースの素材については、洗って繰り返し使える、環境に配慮した素材を学生自ら考え選定しました。加えて、地球温暖化防止および海洋汚染防止を考慮したマスクケースのデザインを検討していただき、その結果、温暖化対策のアイデアを織り交ぜ

たオリジナルのマスクケースが11点集まりました。

学生による作品のプレゼンテーションを受け、審査した結果1作品が選ばれ、名身連第一ワークス・第一デイサービスのみなさまの手により商品化されます。

コンテスト形式で地域貢献・社会貢献活動に参加したという経験をもとに、自らの社会的な役割について意識し、今ある地球を未来に残すため活動していくきっかけとなるコンテストになったのではないでしょう。



図1：慈恵歯科医療ファッション専門学校での事前授業の様子



図2：商品化に選ばれた作品（左）学生デザイン案（右）サンプル

※写真はイメージです。実際商品化されるものとは異なる場合が御座いますのでご了承ください。



【ソフト支援事業実施機関】
株式会社ウェストボックス
Tel：052-265-5902 Fax：052-265-5903
E-mail：info@wastebox.net

中部Jクレ コラム バックナンバー
<http://www.chubu.meti.go.jp/d34j-credit/platform/column/column.html>